

# 感染症対策

県感染症情報センター

## 声なき感染症を知る ◆77◆

9月に入り今のところ、奈良県の新型コロナウイルス感染症の新規報告者数は少ない状態が続いていますが、秋から冬にかけて季節性インフルエンザとの同時流行が起きた場合、医療現場のみならず日常生活にも多大な影響が懸念されています。今回は、感染症の広がりを抑えるための基本である「感染症対策」についてお話しします。

### ▽感染症対策の基本的な考え方

感染症が成立するには、感染源（病原体）と、病原体に対する免疫のない感受性宿主（＝感染症にかかりやすい人）、そしてそれらを繋ぐ感染経路が必要です。そのため、感染症にかからない、また感染症を広げないためには、「感染源の排除」と「感染経路の遮断」が重要な対策となります。

### ▽病原体により異なる感染経路

感染症は、さまざまなウイルス、細菌、寄生虫などの病原体が、外部から体内に侵入することで起こる病気のことですが、感染経路は感染症や病原体の種類によって決まっています。例えば、風邪であれば唾液などの飛沫に、胃腸炎であればトイレ使用後の汚染された手などに対する感染症対策が必要です。

一般的に感染経路の種類としては、①接

触感染②飛沫感染③空気感染④血液感染などがあり、血液、体液、喀痰（かたん）等の分泌物、嘔吐物等は、感染する危険性があるものとして考えます。

感染経路の特徴を把握し、それぞれに適した感染症対策を行いましょう。

### ▽手指衛生と咳エチケット

前述の四つの感染経路のうち、医療機関

## 予防の基本は手洗い 地道な対策実践が肝

外、特に普段の生活で注意しておくのは、

### ①接触感染と②飛沫感染です。

接触感染では手が、飛沫感染では飛沫が、それぞれ病原体を伝播させます。そのため接触感染を防ぐためには、調理前、食事前やトイレ使用後、不特定多数の人が触る場所（ドアノブや吊革など）を触った後に、

手洗いなどで手指衛生を行うこと、また汚れた手で顔（特に目、鼻、口）を触らないことが重要です。



一方、飛沫感染を防ぐためには、咳やくしゃみをする時にマスクの着用、ハンカチ袖を使って口や鼻を抑えるなど、咳エチケットを行うことが重要です。

### ▽適切にできているかのチェック

感染症対策がきちんとできていないことも、偶然につまきいき、問題にならないこともあります。しかし感染症の流行が起きている場合には、必ずどこかに感染症対策上の綻（ほころ）びがあると考えられます。感染対策をしているかだけではなく、それが適切な方法、タイミング、状況でできているかをチェックする必要があります。

それは地味な作業ではありますが、自分だけでなく周囲の人の健康を守るためにも、一人一人が地道に実践することが重要であり、それが感染症流行の収束につながります。

また、感染症対策の一環として、体調不良者が休みやすい職場の環境づくりも大切です。

厚労省が「進撃の巨人」とコラボレーションして作成した「咳エチケット」の啓発ポスター（©諫山創・講談社）「進撃の巨人」製作委員会

人に比べて、感染症にかか

ることで命に関わるリスク

が高く、また感染原因を究

明するために医療機関や介

護施設の機能を制限（例え

ば入院や手術を制限）する

ことがあるからです。